

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	地域防災訓練に参加し、地域との関わりを深める ～住民との顔の見える関係性を通した在宅医療推進への試み～
演者名	遠藤 聡恵 1)、若林 千秋 1)、澁谷 咲子 1)、洪 英在 1) 2)、 四方 哲 1)
所属	1) 三重県立一志病院 2) 三重大学津地域医療学講座

目的

当院は高齢過疎化の進んだ地域で、「健康のつどい」「健康教室」など地域住民を対象とした啓発活動を開催するなど、地域住民に参加していただく活動を展開している。また、在宅医療の更なる発展にむけた取り組みも開始している。今回、地域防災訓練への参加が、地域住民との顔の見える関係性を構築するのに有効であり、病院の地域活動で有意義であったと実感したために、その実践内容を報告し、考察を行う。

実施内容

防災訓練に参加した住民を小グループに分け、「出血時の対処法」「骨折時の対処法(前腕)」「火傷時の対処法」を、当院看護師と地域高齢住民との対話形式で、実践的なグループワークを行った。「もし あなたが、隣人が腕を骨折したら、どうしますか？」との問いかけから始まり、家によくある物品で対処してもらい、その対処方法についてスタッフからアドバイスをを行う、という形式をとった。

実践効果

地域住民は皆、熱心に実習に参加され、多数の質疑応答がなされた。地域住民は対処法を実際に知って経験するだけでなく、病院スタッフとのコミュニケーションを取ることで、スタッフへの信頼、そして、病院への信頼へと繋がり、病院の行っている取り組みもアピールすることができた。

考察

地域住民の方が多く参加される防災訓練において、小グループ、対話型の実践的なグループワークを行うことは、自らの病院の取り組みをアピールし、地域住民との顔の見える関係の構築に役立つと考えられた。地域医療を発展させるためには地域住民とともに活動を展開する必要があるが、地域の行事に参加し、直接対話ができる形式の会を行うことは有効であると考えられた。当日は、実践内容の実際を当日の風景も交えて報告する。